学校番号	１００１

令和５年度　家庭科

教科	家庭	科目	服飾手芸	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・基本的な手芸に関する知識を身に付け、生活の中で活かせるようになる。
・毎時間の取り組み状況はもちろんのこと、デザインの工夫度など独創性を高く評価する。ひとり一人の個性を伸ばし、創造性を高める授業を行う。

2　学習の到達目標

手芸の種類、特徴、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力を身に付けさせる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	手芸に興味を持ち、自分のイメージを表現しようとする意欲と態度を身に付けている。	デザインや用途に適した服飾材料を選択し、創造的に思考を深め、デザインし表現する能力を身に付けている。	各種手芸の技法を活用し、創造的に手芸品を製作する力を身に付けている。	手芸の種類、特徴、各種手芸の技法などに関する知識を身に付けている。
評価方法	観察等	レポート 観察等	作品 レポート 観察等	観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4・5月	刺繍(ストラップ製作)	・刺繍の種類と技法について ・ストラップのデザインを考え基本的な刺繍の技法を活用する。(作品製作)	○	○	○	○	a: 提出期限までに道筋立てて計画的に取り組めたか。 b:自分の個性が引き立つデザインを考えることができたか。 c:さまざまな技法を組み合わせてまとまりのある作品ができたか。 d: 刺繍の基礎を学び、その技法を組み合わせ、作品に活かすことができたか。	作品 レポート 観察等
6・7・8月	刺繍・アップリ・ビーズ刺繍(トートバック製作)	・さまざまな刺繍の特徴と技法 ・バッグのトータルデザインを考え、刺繍・アップリケ・ビーズ刺繍などの装飾技法を活用する。(作品製作)	○	○	○	○ ○	a: 提出期限までに道筋立てて計画的に取り組めたか。 b: 自分の個性が引き立つデザインを考えることができたか。 c:技法を活用し、まとまりのある作品ができたか。 d:様々な装飾技法の特徴を理解し、その技法を上手く活用できたか。	作品 レポート 観察等
9・10・11・12月	パッチワーク・キルティング(トートバッグ製作)	・パッチワークおよびキルティングの特徴と技法 ・バッグのトータルデザインを考えてパッチワークおよびキルティングの技法を活用する。(作品製作)	○	○	○	○	a: 提出期限までに道筋立てて計画的に取り組めたか。 b: 自分の個性が引き立つデザインを考えることができたか。 c:技法を活用し、まとまりのある作品ができたか。 d:様々な装飾技法の特徴を理解し、その技法を上手く活用できたか。	作品 レポート 観察等

1 ・ 2 月	羊毛フェルト(ブローチ製作)	・羊毛フェルトの特徴と技法 ・ブローチのデザインを考えて羊毛フェルトの技法を活用する。(作品製作)	○	○	○	○	a: 提出期限までに道筋立てて計画的に取り組めたか。 b: 自分の個性が引き立つデザインを考えることができたか。 c:技法を活用し、まとまりのある作品ができたか。 d:羊毛フェルトの特徴を理解し、その技法を上手く活用できたか。	作品 レポート 観察等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。